

国際部会（平成 21 年度第 1 回）議事録

日時：平成 21 年 8 月 18 日（水）12：30～14：00

場所：関東学院大学（地盤工学研究発表会）

出席者：○印出席、×印欠席

古 関 部 長	○	勝 見 部 員	○	小 宮 部 員	×	塚 本 部 員	○
堤 部 員	○	中 野 部 員	○	西 村 部 員	○	ハザリカ部員	○
椋 木 部 員	×	渡 部 部 員	○				

議事録：堤

<配布資料>

別紙—1：平成 20 年度第 2 回国際部会議事録（案）

別紙—2：平成 21 年度国際部会名簿

別紙—3：平成 21 年度各支部国際担当窓口

別紙—4：国際地盤工学会 Young Member Award の受賞

別紙—5：第 4 回日中地盤工学シンポジウム進捗状況

別紙—6：国際地盤工学会第 14 回アジア地域会議 論文に対するタイムテーブル

別紙—7：国際地盤工学会 Council Meeting 議題書

別紙—8：TC, ATC 一覧

別紙—9：シリア地盤工学会との交流

<議事>

1. 【報告事項】

1) 平成 21 年 1 月理事会への報告（1 2 月は休会）

報告事項 ①第 2 回日韓地盤工学ワークショップ開催報告

開催日：20.11.10-11（11 日は現場見学）／開催地：JGS 会館／参加者数：61 名（日本側 44 名、韓国側 17 名）／登録論文数：22 編

②「実務利用を目指すマイクロジオメカニクス」に関するシンポジウム開催報告

開催日：20.11.26-27／場所：JGS 会館／参加者数：54 名／登録論文数：18 編

③「粒状体力学フォーラム」開催計画

開催日：21.4.1-2／開催地：土木学会／主催：TC35 国内委員会／共催：土木学会応用力学委員会・離散体の力学小委員会、土木学会地盤工学委員会・土砂侵食と運搬、堆積に関する学際研究小委員会／参加費：無料

2) 平成 21 年 2 月理事会への報告

報告事項 ①国際委員会議事録（21.1.30 開催）

3) 平成 21 年 3 月理事会への報告

報告事項 ①IS-Tokyo2008 開催報告

開催日：20.11.5-7／会場：中央大学駿河台記念館／参加者数：150 名（国内 77 名、海外 73 名(21 カ国から)）／登録論文数：109 編（国内 55 編、海外 54 編(26 カ国から)）

4) 平成 21 年 7 月理事会への報告（4、5 月は国際部の議題なし、6、8 月は休会）

報告事項 ①IS 開催報告

・ IS-Kyoto2009

開催日：21.5.25-27／会場：国立京都国際会館／参加者数：202 名（国内 159 名、海外 43 名(18 カ国から)）／登録論文数：89 編（国内 55 編、海外 34 編(18 カ国から)）

・ IS-Gifu2009

開催日：21.6.11-12／会場：長良川国際会議場／参加者数：129 名（国内 96 名、海外 33 名(14 カ

国から) / 登録論文数: 56 編 (国内 19 編、海外 37 編(14 カ国から))

・ IS-Tokyo2009

開催日: 21.6.15-17 / 会場: つくば国際会議場 / 参加者数: 284 名 (国内 150 名、海外 134 名(32 カ国から)) / 登録論文数: 240 編 (国内 88 編、海外 152 編(28 カ国から))

②第 4 回日中地盤工学シンポジウム組織委員会および学術委員会構成案

③Groundwater Environment and Quality Management (ATC8) 国内委員会委員の追加

中島 誠 氏 (国際環境ソリューションズ株式会社 中島研究室)

④Waste Management in Geo-Environmental Engineering (ATC17) 国内委員会委員の追加

渡部 要一 氏 ((独)港湾空港技術研究所 地盤構造部)

⑤香港地盤工学会からの協力依頼について

審議事項

①IS-Hokkaido2012 開催計画

②IS-Kanazawa2012 開催計画

5) 国際会員メーリングリスト送信履歴 (2009.2.1-2009.8.18)

2/2 国際会議 (2009.3.3-4、東京) のお知らせ

2/20 国際会議 (2009.12.3-4、京都) のお知らせ

3/12 国際会議 (2010.11.8-12、インド) のお知らせ

3/13 国際会議 (2011.5.23-27、香港) のお知らせ

4/8 「第 17 回国際地盤工学会議」早期割引参加登録および ISSMGE News Bulletin March 2009 発刊のお知らせ

4/9 国際会議 (2010.2.20-24、アメリカ) のお知らせ

4/16 IS-Kyoto2009 プログラムおよび参加登録のご案内

4/21 IS-Gifu2009 プログラムおよび参加登録のご案内

4/22 国際会員、名誉会員の英語での会員データ登録のお願い

5/8 「第 17 回国際地盤工学会議」早期割引参加延長のお知らせ

5/14 国際会員、名誉会員の英語での会員データ登録のお願い (再送)

5/22 IS-Gifu2009 プログラムおよび参加登録のご案内 (再送)

7/2 ISSMGE News Bulletin June 2009 発刊のお知らせ

6) 平成 21 年度国際部会構成

【別紙 - 2】

西村部員 (岡山大) が今年度新任として紹介された。

7) 平成 21 年度各支部国際担当窓口

【別紙 - 3】

中国支部担当者の交代 (新任は鳥取大の西村先生) が確認された。

8) 国際地盤工学会 Young Member Award の受賞

【別紙 - 4】

中島進氏 (土研) の受賞が報告された。受賞者総数は世界全体で 3 名。

9) 第 4 回日中地盤工学シンポジウム進捗状況

【別紙 - 5】

学会誌にて論文募集済み。科研費も獲得済みで、予算にも余裕があることが古関部長より報告された。

2. 【審議事項】

a. 国際地盤工学会第 14 回アジア地域会議 アブストラクト審査スケジュール

【別紙 - 6】

審査員は渡部部員が選出。12 月初旬に審査結果について部会で議論する。日本の採択編数はまだ決定していないが、会員数を考慮した新しい判断基準 (日本にとっては有利) が採用される予定。

b. 国際地盤工学会 Council Meeting 議題書

【別紙 - 7】

議題書で特記事項のある項目は以下のとおり。

6.: 役員の投票、会費支払いルールの詳細な記述 (前回投票の間際の混乱を受けての対応)。

9.: 次期副会長候補者。アジア地域は中国のチェン教授。

11.: 2 名の候補者からの次期会長選出に当たっての各国の支持状況。

12.: 次回国際地盤会議にフランスと中国が立候補。日中協定により、依頼があれば中国を応援する可能あり。

18.: ISRM, IAEG とのフェデレーションについて。今のところ具体的な動きなし。日本企業数社に協力要請があったようだが、状況がよくわからないため JGS としては現段階で静観。

c. TC, ATC の次期タームの活動について 【別紙－8】

TC, ATC の次期タームの活動にあたり、ホスト国を継続するか、新しくホスト国に立候補する分野があるか、委員長、幹事の交代があるかどうかなどを確認し、日本としての希望を順次伝えたい旨、古関部長より説明があった。次期会長候補のプリオー教授から TC の次期活動についてのアンケートがすでに回っている背景もあり、できるだけ早く日本国内の状況をまとめたい。

現段階での状況は以下のとおりで、今後も古関部長を中心に聞き取りを進めるほか、参加 TC のある部員は各自の TC, ATC の状況を確認する予定。

TC3: 不明

TC4: ホスト国と委員長を他国に交代予定

TC29: 幹事が渋谷先生（神戸大）から古関部長に交代予定

TC35: 不明（検討依頼済み）

TC28, TC36: 委員長候補を推薦できる可能性は低い

ATC3, ATC10: ホスト国と委員長を継続予定と見られる（これから確認）

ATC17: ホスト国と委員長を他国に交代する可能性が高い

TC17, TC18: 不明（委員長候補を推薦できる可能性を調査予定）

TC34, TC23, ATC8: 不明（これらから検討依頼）

d. シリア地盤工学会との交流 【別紙－9】

来年度開催を目標としたシリアでのセミナー開催（日本からの講演者派遣）の実行可能性について、東畑先生（東大）から検討要請があった。シリアの地盤工学会主要メンバーと東畑先生との合意に基づいたもので、シリア側は **Expansive soil, Gypsum soil (underground caverns), Slope failure** の実務的解決策に関するトピックを希望しているとのこと。

議場では適任者の推薦がなかった。適任者がいれば随時提案してほしいとの呼びかけが古関部長よりなされた。

e. 公益法人化に伴う学会規定の変更

国際部に関連する規定の変更要請に対応する必要がある（10項目の規定が該当）。西村部員が主体となってこれに対応することになった。

f. 広報関係

今年度の総務部広報委員会の動きとして、英文 HP の改訂作業が予定されていること、改訂時期、改訂にあたっての機能追加の希望を国際部から提案して欲しいとの要請があったことが、堤部員より報告された。

国際部内では現状の内容を更新し、継続して利用できれば問題ないとの意見がまとまったため、改訂時期や機能追加について特別な要望はないことが確認された。

各支部の担当窓口からの要望を確認後、国際部全体としての要望を広報委員会へ報告することとなった。今年度の TC, ATC は次期タームに向けての改選の時期であるため、要望の聞き取りは行わないこととなった。

g. その他

会員支部部・技術者教育委員会の活動の一環として、海外での（個人ではなく）企業ベースの活動履歴のデータベースを随時更新中であること、国際部を通して各支部の国際担当窓口にも協力を依頼したいことが、同委員長を兼任する中野部員より報告、提案された。

古関部長と調整の上、依頼の発信元を明確にして各支部に協力依頼することとなった。

* 国際部から提出する9月理事会の議題（審議事項、予備審議事項、報告事項）は事務局で準備

* 次回部会は日程の調整後、12月初旬に開催の予定。